

令和4年3月30日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
管理機関名 高知県教育委員会
代表者名 教育長 伊藤 博明 印

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 高知県立室戸高等学校

学校長名 藤田 勇人

類型 グローカル型

3 研究開発名

目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践

4 研究開発概要

ESDの視点で地域貢献につながる活動を体系化する。また、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発し、本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリアを形成する基礎的・汎用的能力をさらに向上させる。

総合的な探究の時間や、学校設定科目「ジオパーク学」、キャリア教育や探究活動の取り組みをさらに発展させ、人とのつながりの深化、地域への貢献を目標としたカリキュラム・マネジメントの開発に取り組む。さらに、ESDの視点で地域貢献につながる取り組みを体系化するとともに、ユネスコ世界ジオパークのつながりで国内外の関係機関との交流に取り組み、生徒が積極的に活動する機会を与える。

これらの取り組みによって、将来、地域産業を支えるグローバル人材を育成する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--|---|---|
| ・学校設定教科・科目 | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input checked="" type="checkbox"/> 活用していない |

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岩井 雅夫	高知大学海洋コア総合研究センター・教授	学識経験者
杉尾 智子	独立行政法人国際協力機構（高知県 IYEO）・副会長	関係行政機関職員
近森 憲助	高知学園大学・学長	学識経験者
中村 昭史	室戸ジオパーク推進協議会・地理専門員	学識経験者
別府 誠	高知県観光振興部地域観光課・課長	関係行政機関職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
高知県教育委員会	伊藤 博明 (高知県教育長)
高知県立室戸高等学校	藤田 勇人 (室戸高等学校・校長)
室戸ジオパーク推進協議会 (ESD 活動拠点センター)	大西 亨 (室戸市観光ジオパーク推進課・課長)
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	赤池 慎吾 (高知大学次世代地域創造センター・准教授)
室戸高校魅力化の会	百田 貴昌 (室戸市教育長)
室戸市 SDGs 推進本部	植田 壯一郎 (室戸市長)

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	小笠原 翼	室戸ジオパーク推進協議会・国際交流専門員	依頼回数に応じて謝金支払い・室戸高校で勤務
地域協働学習支援員			

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム関係			5回	2回	2回		3回				1回	
海外交流アドバイザー 地域協働学習実施支援員	通年で活動											
運営指導委員会						1回					1回	

(2) 実績の説明

① コンソーシアムについて

○オンライン会議 令和3年6月16日

- ・これまでの報告、最終年度の活動計画

○室戸高校魅力化の会

令和3年6月16日 生徒活動報告、室戸高校のPR、公設塾、学校支援について協議

令和3年7月29日 成果報告、地域課題の解決に高校生の力を活用する企画提案

令和3年8月25日 室戸市教育委員会と小中学校連携の打合せ

○室戸ユネスコジオパーク推進協議会

令和3年6月10日 生徒活動報告、本年度活動概要の説明

令和3年6月17日 令和3年度活動計画確認

令和3年10月28日 ジオパーク推進チーム活動報告会

○室戸市保小中高・園長連絡協議会

令和3年8月26日 生徒活動報告、高校生と保育園・小・中学校との協働内容について検討

令和4年2月 成果報告

○室戸市長との協議

令和3年6月28日 女子野球支援について

令和3年7月7日 室戸市とUGGPについて協定書締結

令和3年10月1日 室戸高校生徒と米国大学先進研究者とのオンライン探究について

令和3年10月15日 室戸定置網の理解について協議（室戸廃校水族館）

②海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員について

令和3年4月～令和4年3月

- ・ランカウイについて情報収集

- ・ジオパークスタディツアー（島原半島ユネスコ世界ジオパーク）の行程表案作成

- ・ジオパークスタディツアー（島原半島ユネスコ世界ジオパーク）生徒指導用資料作成

- ・代表生徒との勉強会

- ・ユネスコ世界ジオパーク関係機関との連絡・調整

- ・JGN全国大会に係る連絡・調整

- ・JpGUに係る連絡・調整

口頭発表申し込み（アブストラクト、プレゼンテーション準備）

生徒とのミーティング

- ・生徒の研究活動に対する指導・助言

- ・ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会の運営

③運営指導委員会について

○第1回会合 令和3年9月6日

- ・地域との協働による高等学校改革推進事業の取組について説明

- ・ジオパーク学との教科間横断型の授業を拡げていくための授業アイデア等についての協議

- ・高校生国際交流会に向けた留意点等の協議

- ・生徒の取組を広く知ってもらう方法等の協議

○第2回会合 令和4年2月17日

- ・1年間の総括と指定事業終了後の取組計画について協議

④管理機関における取組について

○管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・円滑な事業執行のための学校への助言
- ・海外交流アドバイザー・地域協働学習実施支援員の配置
- ・マレーシア・ランカウイジオパークとの窓口（コンソーシアム）
- ・ジオパーク学習に関する助言（コンソーシアム）
- ・地域振興にかかわる研究テーマの提言と成果発表への教員及び生徒の参加費支援（コンソーシアム）
- ・他県のジオパーク推進協議会と学校との連携支援（コンソーシアム）
- ・SDGs学習等地域イベント・研修会への生徒招待（コンソーシアム）
- ・生徒の商品開発への支援（コンソーシアム）

○事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・県外及び海外関係高校との遠隔システム活用による交流
- ・県独自の予算措置による取組の継続

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究開発	通年で取り組み											
地域課題研究	通年で取り組み											
カリキュラム開発	1回	1回	1回	3回		1回	1回				1回	2回
総合的な学習の時間	1回	2回				2回		1回	3回		2回	
海外交流アドバイザー	通年で取り組み											
地域協働学習実施支援員	通年で取り組み											
地域との連携	通年で取り組み											
地域貢献活動(ボランティア)				2回	2回	1回		1回				
コンソーシアム		1回	1回	1回			1回	1回	1回	1回	2回	
運営指導委員会						1回	1回				1回	1回
国際交流	1回	7回		3回		1回	2回	2回		3回	1回	

国内交流								1回		2回	1回	
地域交流 (保小中)		1回	1回	2回	2回	3回	1回	1回	1回		1回	

(2) 実績の説明

① 研究開発

E S Dの視点で地域貢献につながる活動を体系化し、ジオパークを題材にした海外交流体験によるグローバルな視点を加えた、カリキュラム・マネジメントを開発する取り組みを進めることができた。そのことから本校がこれまで取り組んできたキャリア教育によって培われてきたキャリア形成の基礎的・汎用的能力の向上を推進することができた。

研究開発を行うにあたり、教科間連携と地域との連携を行うことで学びの効率化と深化を図った。その際には本年度より本格化した Google Workspace の導入が非常に役立った。Google Classroomをはじめ、生徒と教員、そして地域協働学習実施支援員をはじめ生徒の活動の指導助言者との情報共有が容易にできるプラットフォームができたことから、効率的に情報共有をし、オンライン上でのコミュニケーションが可能になった。プラットフォームの構築や生徒の Google Workspace の活用においては教員が主導となり、生徒への指導を行った。現在は生徒、教員、指導助言者の協働体制ができ、探究活動を進めることができている。

また、ジオパーク推進協議会との連携協定が締結されたことで、E S Dの知識が豊富な専門員によるアドバイスを受けることができ、生徒、教員ともにSDG sを意識した探究活動の推進が進んだ。

②地域課題研究

これまでも総合的な探究の時間をとおして生徒が地域の魅力を知り、課題を発見し、その解決策を考えるという活動を行ってきた。ステークホルダーとの連携を推進することで、生徒の課題意識をさらに掘り下げ、より実現可能な解決策を考えることができた。また、生徒の地域貢献活動への意識も高まっている。生徒による探究活動が深まりを見せてきたことから、今後も更なる地域との協働と、地域課題探究活動の活発化が期待できる。

③カリキュラム開発及び実践

カリキュラム・マネジメントにおいては、担当教員間で様々な試行錯誤を行うとともに、校内研修でジオパークを柱とした教科間連携についてのアイデアを出し合った。こういった活動をとおして教員間の教科間連携への意識づけができただけでなく、実現可能性の高いアイデアを元に実際に「ジオパーク学（商工業・芸術系列）」と「コミュニケーション技術（生活・福祉系列）」による、互いの特徴を活かした教科間連携を実施できた。この取り組みをモデルケースとし、今後も相乗的な学習効果の向上を目指した連携を推進していく。

ア. 産業社会と人間（1年・2単位）・・・ライフプラン発表会

地域の魅力を知り、地域で活躍する人材について知ることに加え、自分自身について知るキャリア学習を実施。生徒は「知る」「考える」「発表する」という過程を経て、知識に基づいて意見やアイデアを発表する経験を積んだ。

イ. 続産業社会と人間（2年・1単位）・・・地方創生アイデア発表会

地域課題について統計データを示しながら分析することから始め、自分自身のキャリ

アプランとも関連付けながら地域活性化のアイデアを考えて発表した。生徒は一年次の学びを活かし、統計データを盛り込んでアイデアを考え発表することを通し、表現の仕方の工夫を意識することができた。

ウ．課題研究（3年・2単位）・・・課題研究発表会

各教科指導や課外活動などあらゆる教育活動における範囲で研究テーマを設定し、学校教育活動で得た知識や技術を活かして、自身のキャリアプランと関連付けながら地域貢献に関わる研究活動を行った。また、地域との協働による活動が研究テーマ設定の動機づけになるケースも多く見られるなど、様々な経験が活かされていた。

④海外交流アドバイザー

国内外のジオパーク関連機関との連携交渉及び生徒の交流の中心的な役割を担った。姉妹ジオパークであるランカウイユネスコ世界ジオパークとの合同イベントを企画運営した。その他、本校生徒・教員を対象とした韓国語講座を開催するなど、英語に限らない言語を知り、学ぶ機会を提供した。その他国際交流に係る多様な機会に教員と連携することで生徒の外国語運用能力と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度の向上に貢献した。また、ジオパーク地域を訪問するスタディツアーの企画運営を行うことで生徒の体験的学習の機会を提供した。

⑤地域協働学習実施支援員

ステークホルダーとの調整役、生徒の地域探究活動の企画運営の中心を担った。また、生徒が発見した地域課題の解決等の学習においては的確なアドバイスを与えた。地域関係各所における生徒の発表の機会の提供、体験を通じた探究活動の場を設けるなど、地域と高校を結ぶ活動を企画運営することで生徒の活動を活発化させた。また、発表の際には生徒を指導することで専門的な立場からの指導助言をいただけた。

本校からの依頼に限らず、ステークホルダーから高校への依頼や企画の提案の橋渡しとしての活動は、地域との協働をとおしての学校教育の推進に大きく貢献した。

⑥支援団体（コンソーシアム、運営指導委員会、その他の外部団体）

カリキュラム開発や生徒の探究活動について、専門的な立場から指導と助言をいただくことで取り組みの改善につなげることができた。また、会議の場における指導・助言以外にもそれぞれの立場において支援をいただき、生徒や教員の活動の場を広げることができた。また、生徒の新たな活躍の機会をいただくこともあり、活動の場を広げることができたのも大きな収穫であった。

地域人材を活用した校外推進体制としては、「室戸市まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、地域課題の解決等に向けた取組と海外交流による効果的な人材育成に向けた取組の検討を進めるため、学識経験者を含むコンソーシアムを構築している。

⑦成果の普及

授業内外の活動を問わず、生徒の探究活動については機会があるたびに呼びかけ、発表の機会を得てきた。中には入賞し、ウェブサイトへの掲載や代表としての発表の機会をいただくことで、室戸高校生の活動を広く知っていただく機会となった。また、探究活動における成果物（ポスターやスライド）は室戸世界ジオパークセンターに展示していただくことで、

室戸高校生の地域貢献活動をPRしている。生徒から提案があったSNSでの学校活動PRについても、公式SNSを開き、日常における生徒の活動の様子を幅広く知ってもらえるように取り組んでいる。

令和3年度には地域協働学習実施支援員と本校教員が協働し、「防災教育を軸とした地域との連携～生徒と地域のレジリエンスを高める取り組み～」というテーマで日本教育公務員弘済会高知支部主催の教育実践研究論文に応募し、「学校部門」に入賞した。また、地域協働学習実施支援員による「日本ジオパーク全国大会」や香川大学主催のシンポジウムでの取り組み発表など、室戸高校の取り組みについて広く普及する活動を行った。このように、本校の好事例を普及するため、様々な機会を利用している。海外へのPRについても、海外交流アドバイザーを中心にユネスコ世界ジオパークネットワークを活かした広報活動を行っている。ランカウイユネスコ世界ジオパークとの合同イベントをアジア太平洋ジオパークネットワークの広報誌に掲載していただいた。

学校として積極的なコンテストの参加により、生徒の取り組みが学校全体で共有できるようにした。定期的なコンテストへの参加は年間計画とあわせて進捗管理ができることと、発表や表彰・主催側からの講評を外部評価として活用することで、全体にフィードバックし指導の見直し・改善を行ってきた。

また、地域で唯一の高等学校であるため、学校は室戸市の各種協議団体へ代表委員として参加している。そのような協議会の場において室戸高等学校の生徒の取り組みを紹介し、参加の委員の皆様からご意見やご示唆をいただき、評価いただくようにした。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

「ユネスコ世界ジオパーク地域唯一の高等学校として、その資源を有効に活用し、世界の様々な地域と関わることで、グローバルな視点で物事をとらえることができる資質を持つ人材を育てる。」「総合学科ならではの教育活動の特色を活かし、郷土理解の学習をとおして地域の文化・歴史・生活・産業に深い見識を持ち、将来、地域産業の発展に参画できる人材を育てる。」という二本の柱を掲げて三か年の取り組みを行ってきた。また、「すべての学校活動を地域貢献につなげる」ということを意識したカリキュラム開発を目指した。

地域との連携が加速度的に進む中、ジオパーク関連活動にとどまらず、地域課題の発見と解決するためのアイデアを考え、発表するという過程全てにおいての協働体制が固まりつつある。室戸市の取り組みに高校生が参画する機会も増え、協働することによるメリットを双方が認識できたことも大きな収穫であった。三年間を経て、「室戸高校では探究活動ができる」「自分たちのしたいことを実現できる学校」という声を生徒から聞くことも増えた。生徒が自分たちの探究活動を通して、地域に貢献できているという意識が高まっていることが一番の成果でもある。

カリキュラム開発においても、試行錯誤を経て結果としてジオパークを軸とした教科間連携によるプロジェクト型学習を始めるなど、一定の方向性を示すことができた。現時点でも「産業社会と人間（1年）」で1学期からSDGsについて学習するなど、ESD教育の推進も進んでいる。

手探りの中始まった事業の方向性が定まりつつあった中で、国内外の地域・学校への訪問、校外での活動など予定していたほとんどの活動を思うように行うことができず、軌道修正を余儀なくされた。しかし、結果として地域との協働体制を強固にするきっかけにもなった。また、変化に対応する教育の在り方について深く考える機会を得られたことは評価に値すると考える。

<添付資料>目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、直接の海外交流が行えなかった。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症のため直接的な海外交流に制限があり、当初の計画から大幅な変更をせざるを得なかった。しかしながら、GIGA スクールにより導入された Chromebook の活用により、一人一台でオンライン交流を行うことができた。他校での実践を参考にしつつ、ICT を活用した交流活動を今後も積極的に取り入れる。

(2) 指定校事業に係る組織がなくなり、学校の取り組みの内容を精査したり、進捗状況を確認したりする定期的な機会がなくなることで、これまで築き上げてきた協働体制が継続できるのかということが大きな課題であるため、以下のような協働に向けたシステムづくりを行った。

・室戸ジオパーク推進協議会との連携協定締結

これまでの本校の探究活動や国内外の地域・学校との交流において協働体制を築いてきた組織と連携協定を締結し、連携体制が個々の活動ではなく組織の活動になったことで、継続的な協働的活動が可能になった。受け身に回らず、本校から積極的に働きかけ、連携・協働を進めていきたい。

・ユネスコスクールへの申請（令和3年12月15日～1年間のチャレンジ期間）

本校は既にユネスコ理念に基づいた教育活動を積極的に行ってきた。そういった活動が地域との協働の促進や本校の魅力化にも結び付いていることから、地域との協働を継続し、室戸高校の地域貢献活動や魅力を広く知ってもらう一つの手段として申請した。これを機に国内外のネットワークを広げ、ESD教育を更に推進する。

【担当者】

担当課	高等学校振興課	T E L	088-821-4542
氏 名	中越 啓介	F A X	088-821-4720
職 名	指導主事	e-mail	311801@ken.pref.kochi.lg.jp